

総合的な学習の時間  
「手話ではなそう！」

川崎市立古市場小学校

単元（題材）目標

- ・手話を一つの言語活動として、子どもの時から慣れ親しむとともに、さまざまな人とのコミュニケーションをとる方法とする。

（１）実施時期

10月

（２）対象（学年等・人数）

個別級 全児童 11人

6年3組 全児童 23人

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：個別級担任（4人）

（４）実施内容

「世界中の子どもたちが」の歌に手話をつけて歌い、10月の朝会に全校児童の前で発表した。6年3組とは教室が隣同士で、給食を一緒に食べるなど、普段から交流が多かった。さらにつながりを深めようと協力を求め、一緒に実施することとなった。

個別級の児童は少しずつ練習し、先に覚えることができた。10月になってから、6年生に、給食の時間などを利用して今度は教えるという形で進めた。一生懸命に教える個別級の子どもたちの姿にひき込まれるように6年生も覚えていった。

発表当日は最初に個別級の子どもたちだけが、歌と手話で表現した。しっかりと声をだし、一つ一つの手話を丁寧に大きな動作で披露した。2回目に、6年生が加わり、さらに、声量も増していった。お互いが手話を見合いながら、息を合わせていくと温かい一体感をつくりだした。

（５）成果

6年生と1つの目標に向かって、交流することができ、大きな達成感を味わうことができた。お互いの良い思い出ともなった。

個別級児童にとっては手話で歌えることが、大きな喜びの一つとなり、自信を深めることにもつながった。

（６）その他

本校児童には、日本語も外国語も手話もどれも「同じ言葉」で、コミュニケーションを深めるための一つの手段であると気付いてほしかった。

